平成25年度　女子美術大学付属中学校（国語）　解答・解説

解答

一

問一　言いたいこ
問二　ア
問三　話すことが苦手なのに、日直として終わりの会でスピーチをしなければならないこと。
問四　三島くんとの会話の内容をクラスのみんなに聞かれたらはずかしいから。
問五　エ
問六　なにげないしぐさとかちょっとしたしゃべり方で、クラスの全員の気持ちを引きつけ、みごとな落語を聞かせたところ。
問七　話すことが苦手なわたしがスピーチをしなくてもすむように、終わりの会で落語をやってくれた。
問八　イ
問九　エ
問十　昨日の終わりの会のときに助けてくれたことへのお礼だとはっきり伝わるように「ありがとう」を言うこと。
問十一　イ
問十二　大きくて通る声が出せたのに、またいつものようなおどおどした小さな声になってしまったので、声なんてそうかんたんに変わらないと思ったから。
問十三　三島くんには自然に言いたいことが話せ、大きくよい声だとほめられ、さらに落語を一緒にやろうと誘ってもらって、自分も変われるかもしれないと思ったから。
問十四　ア　窓　イ　挙〔げた〕　ウ　にがわら〔い〕　エ　将来　オ　意外

二

①　角・エ　②　腹・イ　③　巻〔く〕・カ

解説

一

問十　三島くんにお礼を言いたいのになかなかそれができず空回りが続きます。「もっとちゃんと、言わなきゃ」と勇気をふるい、そしてやっと「昨日は、スピーチのとき、ありがとう。助けてくれて、ありがとう」と言うことができます。

問十三　言いたいことがうまく言えず、ちゃんと伝えられないことになやんでいた「わたし」ですが、三島くんとはおどおどせず話せるようになり、そしてコンプレックスだった声についても「でかい声だせるやん！ほんで、めっちゃええ声やん！」とほめられます。そして一緒に落語をやらないかと誘ってくれたので、「変わりたい」「自信を持って大きな声で言えることがあるんだって、信じてみたい」と思っていることを自覚します。